

終邊報丙第一四號

受 齋野中佐
時間一六〇〇
擔任 齋野中佐

昭和二一、二
外 三
課

一、外地ヨリ還送ノ現金及郵便貯金等ノ處理ニ關スル各省主任者打合

セノ件

ノ右現物ノ受領處理ハ厚生省トス

ニ本人ニ交付スル業務處理ノ細部ハ厚生省ニ於テ別添考慮スルモ

ノトシ關係各省ハ之ニ協力ス

ニ終邊五部

G・H・Q新引揚計畫案（終邊報丙第八號参照）ニ對スル申入意

見ニ關スル件

A第一復員省ヨリ台灣配船ニ關スル諸給與ヲ在台灣日本側ニ於テ

整備セシメラルル件現地ニ十分徹底スル様申入アリ度

B支那方面配船ニ日本側ノ意見呈出ノコト就テハ左記ニ依リ申入

案作製致シ度主任者出席アリ度

0042

期 日 二月八日 一三三〇

場 所 引揚關係各省連絡室

三、第一復員省（別紙参照）

1. 引揚者ノ上陸地滞在期間費ニ關スル件

2. 報道ノ件

3. 海外部隊ニ慰問品送付ノ件

4. 甲万三三電第六四號、朝鮮衣電第九號照會

四、GHQトノ連絡

1. 別添朝鮮人、台灣人及中國人ノ歸還促進及處遇ニ關スル覺ヲ私

見トシテ「ハウエル」大佐ニ于テ交セルニ「ハー」大佐ハ研究方約

シタリ

2. 札幌朝鮮人囚人送還問題ニ關シ現地ヨリ司法行政ニ對シ一月二十九

日全員一七〇名送還ノ指令發セラレタリトノ入電アリタルニ依

リ経緯ヲ質シタルニS. G. A. J. A. P. ヨリノ朝鮮米算宛電報（一月

0043

三十日連絡参照)ハ、三十日附發セラレタルモ未タ返事ナシ他方
 第八軍ヨリ北海道米軍宛何等ノ指令ヲ發シタル話ヲ聞カス又送
 還用ノ船ノ手配モ全然ナシ居ラス現地米軍モ時々オカシナコト
 ヲスルモ本件ハ現在猶未定ノ狀況ニ在ルモノト思考スト答ヘタ
 リ(終連報内第一三號参照)

3. 別添台灣人送還計畫ヲ手交更ニ正式ニ提出スヘキ旨述ヘ置キタ
 リ

4. 吉田大臣ヨリ「マツクア！サ！」元師宛江之島丸送還ニ關スル
 感謝狀ヲ手交シ傳達方依頼セリ

5. 朝鮮人鐵道運賃拂戻ニ關スル指令ハ十月十五日ニ遞及ニ付質
 問セルニ「ハ」大佐ハ左ノ通答ヘタリ

(一) 十月十五日ハ「リセフシロン・センター」ニ關スル最初ノ指令ノ日
 附ニシテ同日以附郵送無送ハ日本政府ノ負擔ニ於テナスヘキ
 旨ノ米側内部訓令アル次第ナリ

(二) 本指令ノ趣旨ハ請求ナケレハ支拂フ要ナシトイフコトニテ既
ニ歸辭セルモノハ請求ヲ旋山スル途モナキ次第ナレハ特ニ支
拂フ要ナシ

(三) 計畫輸送ニ依ラス勝手ニ乗船地ニ集リシモノノ運賃ハ勿論拂
戻ノ要ナシ

(終)

0045

別

紙

引揚者ノ上陸地帯在 昭和二六
昭和二六
第一 後 員 三
三

昭和二六
第一 後 員 三
三

一、引揚者ノ上陸地帯在ニ對スル現狀支拂ノ實績ハ一人當リ一日五
六圓ヲ要スル所之レニ對スル五圓額ハ二圓内外トノ田厚生省ニ於
テ現在豫定シアル額ヲ承知致シ處又五、六圓未滿ナルニ於テハ右
支給方至急詮議アリ度

二、艦船動靜ノ報道ニ關スル件
三、艦船入港豫定ノ報道ハ一般ニ好評ヲ博シアル所右報道ニ依リ出迎
人多數入港地ニ押シカゲ一方現實入港船ノ狀況ト差異多ク一ツハ
出迎人ニ多大ノ迷惑ヲ及ボシ引揚者ハ報道ノ親切力逆效果トナル
實狀ニ鑑ミ左記ニ依リ報道方善美アリ度
ノ動靜報道ハ本船到着後トセノ一
（面會ナラハ之レニヨリ二、三日滞在スル關係上差支ニシ）

0046

助辭報遺カ現實のニ修正多ク受入港カ機發リノ可ニヤ

物資極メア不知意ナル為出遊人ニ對スルオ世話ハ致シ餘ヌル歎
況ナル為爲シ得ル限り遠慮セシレ度コト

並ヒニ引揚船乗船者ノ氏名等ノ事前通知ハ勞力中ナルモ通信其
ノ他ノ關係上目下ノ處因難ナキ事併セテ報達ナリ度

三、海外部隊ニ應間品送付ニ關スル件

歸還者ヨリ左記希望者アルモ實行可能ナリヤ承リ度
ノ復員關係業務カ書類ノ送付

2 書籍ノ寄送、送付

3 留守宅ヨリノ手紙支信、應向（本件ハ不能ノ由、終還ノ向答）

（終）

0047